島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

〒690-0044
島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-26-5525
FAX 0852-21-8150

http://matsuec.u-shimane.ac.jp

地域研究と教育

島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

The University of Shimane Junior College

島根県立大学短期大学部 松江キャンパス発

「地域研究と教育」

はじめに

島根県立大学短期大学部松江キャンパスは、健康栄養学科・保育学科・総合文化学科の3つの学科から構成されており、教育研究にあたる教員は 35 名で組織されています。

この 35 名の研究は、それぞれの専門領域の学問的な課題探求によるものであり、松江キャンパス全体で、人間諸科学の多彩な領域の研究がおこなわれています。

そのなかから、近年行われた「地域」に特化した研究と、地域貢献を目指した研究教育活動を、ここに集めました。地域の活性化を支える松江キャンパスの教職員一同、さらに学生の活動意欲の高さを、地域の皆様に知っていただきたいと思います。

平成 24 年 6 月に発表された文部科学省の「大学改革プラン」では、平成 25 年度から平成 29 年度までの 5 カ年間で達成すべき、いくつかの目標が掲げられていますが、その中の一つが「地域の課題解決の中核となる大学の形成ー大学 COC（Center of Community）機能の強化」です。「地域人材の育成・雇用機会の創出」「地域活性化・地域支援の取り組み」「産学連携・地場産業の振興」といった大学 COC の課題は、これまでの松江キャンパスの活動エネルギーの方向性と完全に一致しています。今後とも、さらにこの方向性を見極めながら、地域との連携を深め、歴史ある「地域大学」として地域に貢献していきますので、地域の皆様には、どうぞさらなる連携をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成 24 年 11 月

松江キャンパス副学長　山下由紀恵

目次

≪健康栄養学科≫
地域の「食」と栄養の専門研究

しまね和牛の食味研究 ‥‥ p2
地域振興に生かす特許 ‥‥ p2
西条柿の食品開発研究 ‥‥ p3
小児糖尿病大山サマーキャンプ ‥‥ p3
炎症性腸疾患患者会食事学習会 ‥‥ p4
大学と行政が連携して行う地域交流型食育推進の検討 ‥‥ p4
●学外への協力事業
雲南市、奥出雲町、松江市、安来市 ‥‥ p5
島根県・島根県農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会島根県本部、松江商工会議所、農林水産省・島根県、松江保健所、松江市立乃木小学校 ‥‥ p6

≪保育学科≫
地域の子どもと「保育」の支援研究

全人的保育者養成を目指してーほいくまつりという総合表現活動の取り組みー ‥‥ p7
虐待の早期発見と支援に向けて ‥‥ p8
島根県保育所（園）・幼稚園造形研究会への協力 ‥‥ p9
保育専門職育成のための「表現とコミュニケーション」ワークショップ・プログラムの開発 ‥‥ p9
しまね子育て支援専門職ネットワーク構築に向けた領域横断的カンファレンス・プロジェクト ‥‥ p10
島根県内における「幼保一体化保育」体制の現状と課題 ‥‥ p10
島根県内における保幼小連携教育の現状と課題 ‥‥ p11
教員と学生による地域支援ボランティア ‥‥ p11

≪総合文化学科≫
「地域文化」の資源的活用と研究

文化情報誌「のんびり雲」 ‥‥ p12
小泉凡教授のハーン研究と地域貢献 ‥‥ p13
出雲神話翻訳研究会 ‥‥ p13
おはなしレストラン、はじまるよ! ー読み聞かせによる人間力の育成ー ‥‥ p14
絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」の誕生 ‥‥ p14
全国図書館大会島根大会における分科会の共催 ‥‥ p15
フィールドワーク：「アジア文化交流」「アジア文化演習」「地域探検学」 ‥‥ p16
「へるん探求」「日本古典文学を歩く」「日本文化演習」「観光フィールド・トリップ」 ‥‥ p17

≪社会教育≫
新たな学修ニーズへの対応

20周年を迎えた社会人向け公開講座 ‥‥ p18
卒後教育としての「栄養士のためのステップアップ講座」 ‥‥ p18
社会人の学び直しニーズ対応「子育て支援専門職再教育」事業 ‥‥ p19

健康栄養学科

地域の「食」と栄養の専門研究

「しまね和牛」の食味研究

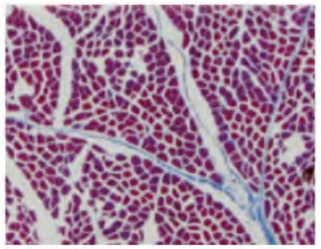
ー島根県畜産技術センターとの共同・受託研究ー

平成18年度から継続して「しまね和牛」のおいしさに関わる要因を探っています。
平成22-23年度は米飼料で肥育したしまね和牛を様々な角度から科学的に研究しました。今後も島根の食のおいしさや機能性を研究・発信します。

官能試験　健康栄養学科学生全員が参加のもと、柔らかさ、ジューシーさ、うまみなどの、おいしさを構成する要素を、実際に食べて評価する官能試験を実施しています。

理化学分析

成分・組成
◆どんな成分が含まれていると食味が良いのか?



肉質（筋繊維）の評価
◆おいしい食肉の肉質はどんな構造なのか?

物理的性質
◆食肉の柔らかさは?
◆どんな調理方法でおいしくなるのか?

地域振興に生かす特許

島根県は全国的にも糖尿病有病率の高い県です。ここ島根で糖尿病患者数の減少やそれによる医療費の削減、健康寿命の延伸が実現することを目指して、糖尿病予防のための研究を行っています。研究成果をもとに、平成24年に2件の発明に対する特許を取得しました。現在は、この特許を活かして、産学官の連携による、糖尿病予防のための栄養価計算ソフト、経管栄養剤の実用化を検討しています。

西条柿の食品開発研究

ー地域貢献プロジェクト事業ー

平成23年度は松江市東出雲町との共同研究で、異形だったり、傷ついたり、部分的に軟化している西条ガキの未利用果実を用い、熟柿ピューレを作ることができないか、また、そのピューレを用いて食品開発ができないかについて検討しました。未利用果実を原料にすることにより、安価なピューレが供給でき、加工原料としてより利用し易くなることが期待できます。現在は、このピューレを使った商品開発に取り組んでいます。

未利用果実から作った熟柿

熟柿ピューレを使った菓子（ラ・セゾン　新田氏提供）

教員と学生による患者会支援活動①

小児糖尿病 大山サマーキャンプ

夏休みの8日間、1型糖尿病の子ども達が、学生ヘルパーや医療スタッフとともに共同生活を行う大山サマーキャンプが開催されます。毎年、教員と2年生が、医療機関の管理栄養士さんと共に、食事係として参加しています。子ども達にとって、食事は最大の楽しみで、病気の治療に欠かすことができない大切な物です！　暑い厨房での作業は大変ですが、栄養士を目指す学生にとって、やりがいがあり、貴重な勉強の機会となっています。

教員と学生による患者会支援活動②

炎症性腸疾患患者会食事学習会

炎症性腸疾患は原因不明の難病です。一生にわたり、良くなったり悪くなったりしながら症状が続きます。炎症性腸疾患の食事療法は制限が厳しく、普通に食事を摂ることが困難です。島根県には、松江、出雲、浜田、益田に患者会があり、年1回程度、「上手においしく食べるための食事学習会」が開催されます。そこに、教員が献立を提供し、学生と共に参加し、患者さんやスタッフと一緒に、作って、味わって、学んでいます。

大学と行政が連携して行う

地域交流型食育推進の検討

—学術教育研究特別助成共同研究—

若い世代の食の乱れが問題となっています。これまでにも本学では、保健管理センターと健康栄養学科を中心として大学生への食育を推進してきました。平成23年度から、より実効性のある食育を目的とし、松江市と連携して、地域交流型の食育を試みています。大学は地域と繋がる場、学生は地域住民と交流することにより食の大切さを学び、学生から学生、大学から地域へと活動の輪を広げ、世代間の垣根を越えた新たな食育の展開を目指しています。

教員と学生による 学外への協力事業

雲南市

平成21・22年度

うんなん鯖パンプロジェクト・うんなんスイーツの杜プロジェクト

雲南市で有名な焼き鯖を使ったパンを考案する「鯖パンプロジェクト」では、サバビザや、サバティーヤ等ネーミングからプロも驚くアイディアを出し、雲南市でできた野菜を入れたスイーツを考案する「うんなんスイーツの杜プロジェクト」では、雲南市のほうれん草や人参を用いた桜餅やシフォンケーキ等を考えました。4月の雲南さくら祭りでは、その作品の販売のお手伝いをしました。

奥出雲町

平成22年度

「野菜産地ツアー」への参加協力

奥出雲町主催で開催された「野菜産地ツアー」に参加しました。このツアーは、環境にやさしい農業を知ってもらうことを目的に平成21年度から開催されています。奥出雲町の生産現場や販売先である松江市内スーパー等を一般の消費者の方々と一緒にまわり、収穫体験や地元野菜を使った昼食会等を楽しみました。生産者や販売者、一般消費者の方々と交流し、地元産物の素晴らしさや大切さ、地産地消の意義を学ぶことができました。

松江市

平成22年度

「健康フェスティバル」への参加協力「つくってつくって男子ごはん」

松江市の食育推進実行部隊である「食部会」に、平成 21年度より健康栄養学科の学生がメンバーとして加わり、大学生の視点を取り入れた松江市の新たな食育に取り組んでいます。平成22年度は、男子大学生を対象として、「つくってつくって男子ごはん」と題し、あじのさばき方や、肉じゃが、味噌汁等の日本食についてみんなで勉強しました。学生による「朝ごはんの大切さ」のミニレクチャーも行いました。

安来市

平成22年度

米のモニタリング調査・食味調査の実施

やすぎ農業協同組合主催の「平成22年度おいしいお米グランプリ」に教員と学生全員が協力して、JAやすぎ生産のお米の食味調査を実施しました。学生にとっては、地元産の米や食味調査法について、講義・実習で学んだことを体験できたよい機会となりました。

島根県・島根県農業協同組合中央会・全国農業協同組合連合会島根県本部

平成23年度 第1回しまねオーガニックフェア

「しまねオーガニックフェア」は、有機農業を「見て」「触れて」「味わって」もらうことにより、日々の生活の中で忘れてしまいがちな食卓の先の風景について、もう一度見つめ直すきっかけづくりをすることを目的に平成23年度から開催されることとなった事業です。学生がボランティアとして参加し、生産者、消費者、販売・流通業者の方々と交流し、島根県の農業、地元産物について学びました。

松江商工会議所

平成23年度 「まつえ駅前活き活き青空」への参加協力

「まつえ駅前活き活き青空」は、地元産品を知ってもらい地産地消を推進することを目的に毎年行われています。平成23年度は、教員、学生が参加し、「県短みのりの収穫祭」として、食育ゲームや、島根県産品を使った手作りのそば粉クッキー・そば粉マドレーヌの販売を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの方々に立ち寄って頂き好評でした。

農林水産省・島根県

平成21年度 第4回食育推進全国大会

食育推進全国大会は、食育基本法に基づき、食育月間に毎年行われる全国規模の食育推進行事です。第4回は島根県で開催され、健康栄養学科の教員と学生全員が参加しました。「わが家の一流シェフ」や「スローフードプロジェクト」、「食育ニッポン!おいしいステージ」、「食リンピック」など様々なコーナーで学生一人一人が食の大切さを伝え、学生自身も食への関心度を高めるとともに、食育の現状や課題について学びました。

松江保健所

平成21年度 1日食品衛生監視員

島根県松江保健所主催の「1日食品衛生監視員」に教員と学生が参加しました。実際にスーパーを巡回する保健所スタッフに同行し、食品衛生監視業務を見学しました。食品表示や食品の定義、保健所の食品衛生監視事業について理解を深めるよい体験となりました。

小学校

平成23年度 乃木小学校での食育授業

平成19年度から毎年1回、教員と学生で、乃木小学校の5年生を対象として、食育授業を行っています。平成23年度は、「からだのリズムと朝ごはん」をテーマとする食育授業を行いました。朝ごはんの良いところやバランスの良い朝ごはんを児童と一緒に考えながら勉強しました。

保育学科

地域の子どもと「保育」の支援研究

第40回を迎える ほいくまつり

平成17年度 文部科学省GP(特色ある教育)採択
「全人的保育者養成を目指して ーほいくまつりという総合表現活動の取り組みー」

「ほいくまつり」とは

◆保育学科の教育理念を体現するシンボル的教育活動です。

◆島根県民会館で毎年6月に開催しており、大ホールは子どもたち・保護者・保育関係者の皆様で溢れます。

◆構成は、歌唱、影絵劇、劇、そして幕間を繋ぐ司会。40年間、変わらない4本柱として受け継がれています。

◆本学が独自に置く専門科目「児童文化」の一環であり、保育学生全員が自治的・自主的に取り組み、全保育教員が専門的立場から指導・助言をする、総力をあげての活動です。

取り組みの特徴

◆6月開催には大きな意味があります。この取り組みを通じて、1年生は入学間もない時期に「保育」の責任と難しさ、そして喜びと夢に衝撃的に出会います。2年生は本格的に保育に向かう意欲と意味と自信を獲得していきます。

楽とは言えない準備期間を乗り越えて迎える公演では大きな感動を味わいますが、それはゴールではなく、深い保育の学びへの契機となり、始まりとなっています。

◆40年の歴史により、近年では幼少期に「ほいくまつり」を観た方が我が子を連れて再び訪れるといったお話をよく耳にします。また、親子二代にわたって「ほいくまつり」に取り組むといったことも出現しています。

◆保育を志す県内高校生の認知度は高く、中・高校生が保育者という将来の夢に出会う場となっており、この取り組みは乳幼児・保護者・保育関係者、そして保育者を夢見る若者に対して、限りない魅力を放っていると言えるでしょう。

虐待の早期発見と支援に向けて

ー学術教育研究特別助成金個人研究ー

全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は、21年連続で過去最多を記録し、平成23年度は6万件に迫ろうとしています。島根県内の児童相談所が平成23年度に対応した児童虐待の相談件数は161件ですが、決して少くはありません。また、全国では虐待死する事例も続きますが、厚生労働省の調査によれば、その4割強が0歳児です。不幸な事例を重ねないためにも児童虐待の早期発見とその支援が必要です。そのためには、ケースワークの初期から支援の方向性を打ち出すまで、ケースワーク過程と一体化したアセスメントが必要です。本研究では、現在島根県の児童相談所が用いているアセスメントの有用性を検証するとともに、新たなアセスメントのあり方や現場のケースワーカーのアセスメント力を伸ばすための研修の開発を目指しています。

島根県保育所（園）幼稚園造形研究会への協力

毎年11月下旬に本学アリーナに島根県内全域の保育所（園）、幼稚園から乳幼児の描画作品約3,000点を集めて、作品審査会を行います。保育学科造形担当教員も審査員として加わるこの公開審査会は保育者の造形指導研修の側面も持たせているため、県内各地域から多くの現職保育者が参加します。

選ばれた特選作品144点は、島根県立美術館にて展示し一般に公開します。また展示対象となった作品を掲載した画集を毎年刊行し、県内の保育・教育現場において造形指導の参考資料として活用してもらっています。

松江発 保育専門職育成のための「表現とコミュニケーション」ワークショップ・プログラムの開発

ー地域貢献プロジェクト事業ー
（松江市健康福祉部子育て課、NPO法人あしぶえとの共同事業）

このプロジェクトは「初任者レベル」の保育・幼児教育者にターゲットを絞った研修プログラムを開発し、離職しやすい「1年以上3年未満」の節目以降も成長を続けるステップを支援することを目的としたものです。

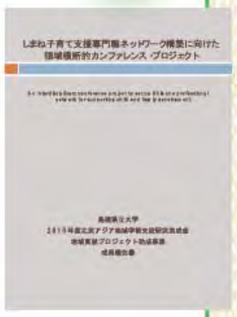
若手保育・幼児教育者にとって必要性が認められる【自己啓発・自己確証につながる体験】【「自分の声」「自分の表情・しぐさ」「相手の表情しぐさ」「相手に応答し会話する自分の体と言葉」などの気づきをもたらす活動】【マニュアルのないところでの表現力】に重点を置き、「表現・コミュニケーション」力の育成を可能にするプログラムとして、NPO法人あしぶえの指導により「インプロ・ゲーム」を導入しました。ワークショップは第1回と第2回に分けて同一参加者で体験し、第1回と2回の間の保育場面への影響も含めて自己評価を実施するよう設計し、段階的な変容過程を分析検討を行います。

それらの成果等から、「幼児教育者スタート・プログラム」としての「表現・コミュニケーション」ワークショップのモデル・プログラムを構成し、報告書によってこの成果を広く公表しました。

しまね子育て支援専門職ネットワーク構築に向けた領域横断的カンファレンス・プロジェクト

ー 地域貢献プロジェクト事業 ー

平成22年度地域貢献プロジェクト助成事業として、「子育て支援再養成講座」の修了者を中心に、「支援現場の研修はいかにあるべきか」をテーマにカンファレンスを開催。
地域の障害児保育に関わる保護者、支援者の聞き取り調査も踏まえて、新たな研修のあり方を検討しました。検討結果は、報告書として公表しています。



島根県内における「幼保一体化保育」体制の現状と課題

ー 学術教育研究特別助成金共同研究 ー

平成23年度の学術教育研究特別助成金共同研究として島根県内ですでに「幼保一体化保育」を実施している公私立施設（保育所・幼稚園）の保育実践を学ぶワークショップを開催。県内各地から99名の参加者が集い、「幼保一体化保育」の現状と課題を学びました。
ワークショップ参加者の参加前と後を比較する意識調査の結果から、幼保一体化保育の課題を研究協議しました。

島根県内における保幼小連携教育の現状と課題

ー 学術教育研究特別助成金共同研究 ー

平成24年度学術教育研究特別助成金共同研究として、島根県内と鳥取県の幼保一体化施設（保育所・幼稚園）を視察研究。子ども・子育て新システム関連の法律改正を踏まえて、今後の新たな保幼小連携教育について、研究を進めています。
この研究は、島根県健康福祉部青少年家庭課・島根県教育庁義務教育課・松江市健康福祉部子育て課との連携協議を踏まえて進められています。

視察施設

倉吉市鳥取短期大学附属認定こども園
隠岐の島町立認定こども園原田保育所
安来市立認定こども園荒島幼稚園・保育所
松江市立揖屋幼児園（幼稚園・保育所）
松江市立意東幼児園（幼稚園・保育所）
松江市立出雲郷幼児園（幼稚園・保育所）
松江市立幼保園のぎ
松江市立しんじ幼保園
雲南市立加茂幼児園
出雲市立中央保育所・幼稚園
浜田市認定こども園日脚保育所
浜田市認定こども園あさひ子ども園

写真：松江市立しんじ幼保園

この共同研究では、無藤隆客員教授を交えて、島根県内の保幼小連携教育について研究協議を実施し、さらに新たな就学前教育の充実を目指して研究を進めます。

教員と学生による地域支援ボランティア

保育学科学生を中心とする松江キャンパス学生は、平成23年度までの島根県教育庁特別支援教育課による「学生支援員」事業に呼応して、安来市、東出雲町・松江市・出雲市等の中学校・小学校・幼稚園で、発達障害の子ども達の支援にあたりました。また島根県立大学短期大学部松江キャンパスと松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校の連携事業に呼応して、乃木小学校での「昔遊び」交流事業への参加支援、湖南中学校の地域ボランティアへの参加をすすめています。
保育学科学生は、幼保園のぎの運動会等の行事への参加支援もすすめています。

総合文化学科

「地域文化」の資源的活用と研究

文化情報誌 のんびり雲

総合文化学科では、学科発足の前年の2006年から教育活動のひとつの柱として文化情報誌『のんびり雲』を発行しています。

本誌は学生と教員が協同して制作にあたりますが、企画、取材から原稿執筆、誌面制作に至るまで、印刷・製本以外のすべての作業を自力でこなしているのが特徴です。誌面のレイアウト・デザインには専門のパソコンソフトAdobe InDesignを使います。こんな雑誌を発行している大学は全国のどこを探しても、おそらくないと思います。

毎年20人程度の学生が制作に関わります。1年生は課外活動的に参加しますが、2年生向けには「文化情報誌制作Ⅱ」という『のんびり雲』の制作を課題とした授業科目があって、この科目を取って記事を書くと単位がもらえます。

本誌の合い言葉は「文化資源の発掘」です。有名で評価の定まった文化財・文化遺産ではなく、地味で平凡な、身近にあってなかなか注目されることのない「小さな文化」の発掘を中心に据えようというわけです。対象地域は山陰両県で、ほとんどの記事は学生たちが実際に現地に足を運んで（教員が同行）取材して書きます。

『のんびり雲』は年に1回、10月半ばに発行しています。頁数は80 ～ 90頁、全頁カラーで写真をふんだんに掲載したビジュアルな雑誌です。発行部数は2500部、山陰両県の主要書店で販売も行っています。

小泉凡教授の ハーン研究と地域貢献

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）を島根の人的資源として社会と結びつける実践研究に取り組んでいます。

NPO 法人松江ツーリズム研究会と連携した「松江ゴーストツアー」は、ハーンが再話した怪談ゆかりの地を語り部の話を楽しみながら歩く夜のツアーで、4 年間で 160 回実施し、2653 人が参加する（2012 年 8 月末現在）人気の着地型観光プランとして定着しています。

また、ハーンの開かれた精神性を現代アートで表現する造形美術展” The Open Mind of Lafcadio Hearn”を、松江市と連携し、2010 年からハーンゆかりの各地で開催しています。

出雲神話翻訳研究会
―地域貢献プロジェクト事業―

松江キャンパス地域連携推進センターでは、平成 23 年度より、「古事記 1300 年」事業に合わせ、「古事記」の出雲神話を地元の大学である本学研究者と地域の専門家が共同で、現代語訳・英語訳を試みつつ読み解く研究プロジェクトを立ち上げ、その成果の社会への還元をめざしています。

具体的には、松江キャンパス公開講座「椿の道アカデミー」の「出雲神話翻訳研究会」（現代語訳解説 4 回、英語訳解説 3 回、計 7 回）の開講と研究会により遂行しています。今後は現代語訳・英語訳の進行に合わせて、翻訳成果を順次デジタル化していき、成果は本学のホームページで広く一般に公開する予定です。

文部科学省GP
(Good Practice) 採択

おはなしレストラン、はじまるよ!

～読み聞かせによる人間力の育成～

「おはなしレストラン」は、絵本の読み聞かせを通して、学生の総合的な人間力を育成する松江キャンパスの特色ある取組です。平成21年度に文部科学省により大学教育推進プログラム（GP）に選定され、それまでの取組を内容・規模ともに飛躍的に発展させることができました。取組の基盤をなす科目「読み聞かせの実践」も、もともと総合文化学科で行っていましたが、3学科共通科目（1年生前期・後期）として開講し、多くの学生が受講しています。

絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」の誕生

平成22年4月、松江キャンパスに、絵本専門の図書館「おはなしレストランライブラリー」をオープンしました。学生が読み聞かせを実践するために利用するのはもちろんですが、一般の方々にも一般の図書館と同様にご利用いただいております。毎週日曜日には学生たちが読み聞かせを行なう「おはなしのじかん」を開催し、大勢のお子様連れでにぎわっています。司書の丁寧な対応、すぐれた絵本の選定、明るく木のぬくもりの感じられる空間など、おかげさまで利用者の方から好評をいただいています。絵本を仲立ちにして学生と地域の皆さまが触れ合う〈交流拠点〉として、これからも大切にしていきたいと思います。

第98回 全国図書館大会 島根大会における分科会の共催

第98回全国図書館大会（主催:社団法人日本図書館協会 ほか）が平成24年10月25日・26日の2日間にわたって、島根県民会館ほかを会場に開催されました。本学（松江キャンパス）では、大会2日目に、日本図書館協会図書館教育部会との共催で、第10分科会（図書館学教育）を大講義室で開催しました。

午前の部では、分科会のテーマである「新しい育成カリキュラムの開始と地方の司書課程・司書講習」のもと、本学からは総合文化学科の教員や学生図書委員会の学生を中心に、「島根県立大学短期大学部の司書養成カリキュラムについて:専門科目『図書館情報学』における新課程への移行と課題」（総合文化学科講師　石井大輔）、「おはなしレストラン、はじまるよ! 授業『読み聞かせの実践』とその成果」（総合文化学科教授　マユーあき）、「学生図書委員の活動から見えてくる図書館ー他とのつながりを求めてー」（学生図書委員会周藤 彩［総合文化学科2年］、山中多希子［総合文化学科1年］）の報告を行いました。午後の部では、シンポジウム「地方の図書館専門教育の未来を考える」が開催され、午前の部の議論をふまえた上で、将来について活発な議論が交わされました。

また、これらのプログラムに合わせて、おはなしレストラン・ライブラリーでは、分科会参加者による見学が行われました。専門職員からの説明の後には、ライブラリーの地域に根ざした活動について参加者から多くの質問がされていました。

アジア文化交流

松江市の国際交流プログラム「松江・日本文化講座」で来日する韓国の大学生と本学学生が交流をしながら学びます。日韓の学生が約 20 名ずつ参加し、2 泊 3 日の合宿を行ない、日本語講座、異文化理解ゲーム、出雲大社見学、料理を通じた交流等をしながら、互いの国の文化への理解を深めていきます。ウォーキングツアーでは、短大生が韓国の学生に松江を紹介するプランを立て、案内をすることで自らの文化と地域についても再発見します。最後に日韓の学生が協力して活動と互いの発見について口頭発表し、レポートで異文化交流についての考察を深めます。

アジア文化演習

夏季休暇中に1週間、日本に近くて縁の深い中国（北京）と韓国（ソウル･仁川）を訪問します。北京では、世界遺産（故宮博物院、万里の長城）の見学、京劇や雑技などの民族文化の鑑賞を行なうことで、伝統文化への理解を深めます。さらにそこに住む人々の暮らしを理解するために、地下鉄や路線バスを使って下町や市場などにも足を伸ばし、人々と交流しながら、日常の生活について観察・記録をします。異文化体験をすることで他者理解を深め、口頭発表やレポートを通じて自己表現をする力も同時に磨いていきます。

地域探検学

夏季休暇中に5日間、集中授業を行います。初日は、学内で奥出雲町の歴史や産業などについて講義を受けます。2日目からは、島根県仁多郡奥出雲町を訪問します。午前中たたら製鉄について学んだ後、午後はグループごとに地域を定めてフィールドワークを行います。3日目は、午前中に前日と同じ地域のフィールドワークを行い、午後はその成果を取りまとめ、夕方には地域の人々をお招きして、成果発表会を行います。4日目は、リンゴ農家や牧場などで農作業体験を行ってから、短大へ戻ってきます。5日目は、グループごとに成果の発表を行い、お世話になった方々にお礼状を書いて、全日程を終了します。学生たちは、地域の人々との触れ合いを通して教室では学べない多くのことを体得し、フィールドワークの楽しさを実感するのです。

へるん探究

山陰地方にゆかりの深い作家へるん（ラフカディオ・ハーン／小泉八雲）の足跡地の訪問見学を通し、ゆかりの地におけるハーンの文化資源的活用について探求することを目的としています。
具体的には、島根県の出雲大社・日御碕神社・一畑薬師、鳥取県の幽霊滝、八橋海岸、妙元寺などのゆかりの地を前期・後期各 1 回ずつ訪問し、現地専門家の指導のもと、地域の関係者との交流を行っています。

日本古典文学を歩く

なじみある島根の地名の歴史や由来を理解するために、『出雲国風土記』は最適なテキストです。この授業では、出雲大社に遡る由来をもつ熊野大社を中心に、神魂神社、発見までに様々な説があった国庁跡や山代二子塚古墳、古代王陵の丘などを、また出雲のスサノオ神を考えるため須佐神社や松本一号墳、クシナダヒメの鎮座地、「八雲立つ…」の須我神社などをめぐってその地勢や規模を確かめ、複雑な古代出雲の形成過程を歩いて辿ります。学生はレポートと出雲古代マップ、写真や絵図をまとめたフィールドノートを作成し、島根の古代史、神話伝承を体感していきます。

日本文化演習

芸術文化の理解を目的として、島根県立美術館の見学を実施しました。美術における女性の表現や、郷土の画家の作品、また水を画題とする絵画等を鑑賞しました。また、宍道湖畔の景観と調和した美術館の建築を通して、「水と調和する美術館」という島根県立美術館の基本的な性格の一つに、触れることができました。今後も、地域の文化資源を見つめる機会となる授業を目指します。

観光フィールド・トリップ

英語文化系1年生がゲストとして迎えた外国人英語教員や留学生とともに、世界遺産の石見銀山と古事記編纂 1300 年祭が行われている出雲大社に出かけました。夜は観光地ゲームやホームタウン紹介などの活動も行い、英語と観光で 2 日間を過ごしました。この成果は後期授業「情報誌制作」で発表することになっています。訪れたからこそ分かる情報満載の英字冊子を作成し、地域観光の国際化に少しでも貢献できればと考えています。

社会教育

新たな学修ニーズへの対応

椿の道アカデミー
ー20周年を迎えた社会人向け公開講座ー

1992年に「短大火曜講座」としてスタートした松江キャンパス公開講座は、今年で20周年を迎えます。公開講座には毎年のべ2800人近い受講者が参加し、社会人の生涯教育の場として地域に定着しています。2012年度は13講座が開講され、内4講座は松江市民大学との連携講座、1講座は山陰民俗学会との連携講座です。

また、20周年記念特別企画として、貸し切りバスを利用した文化資源探求講座「出雲神話をあるく」、名誉教授特別公開講座「過疎地の地域福祉」(髙橋憲二)・「大人のための源氏物語」(三保サト子)、松江市出身の俳優佐野史郎と作曲家・ギタリストの山本恭司による、朗読と音楽「KWAIDANという名の『神話』」を開催し、公開講座会員および広く一般県民に学び楽しむ場を提供しています。

卒後教育としての「栄養士のためのステップアップ講座」

この講座は、管理栄養士国家試験の合格を目指す栄養士の卒後教育として、島根県内の栄養士を対象として開催しています。ここ5年間の延べ参加者数は100名を超えました。インターネット上に質問掲示板も立ち上げ、日程が合わない、遠方で来れないという方でも、随時質問ができるよう対応しています。合格後も情報提供を希望する人が多く、卒業後や国家試験合格後も繋がりを絶やすことなく、地域に貢献できる講座を目指しています。

出雲キャンパスとの連携事業

社会人の学び直しニーズ対応
「子育て支援専門職再教育」事業
ー文部科学省委託事業ー

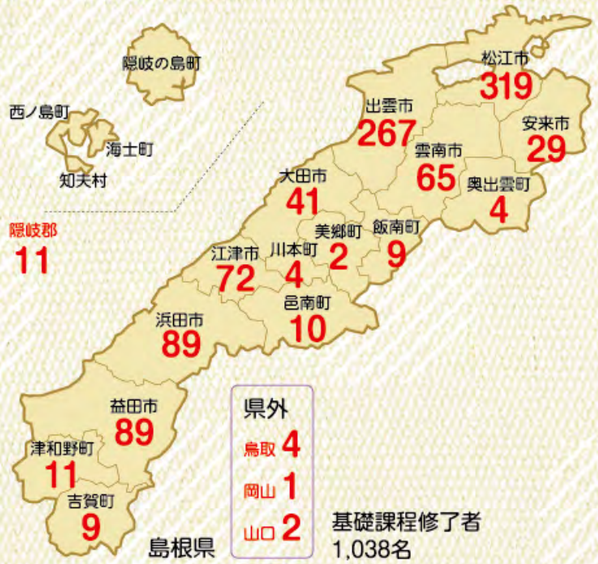
平成19年度から21年度までの文部科学省委託事業として、出雲キャンパスと連携して「子育て支援」専門職再養成講座を実施し、社会人専門職者向けカリキュラムを開発しました。

子育て支援現場でアセスメントや支援に取り組む多くの専門職が集い、産後うつケア・虐待予防コース、食育実践指導コース、早期発達支援コースのカリキュラムで、基礎課程15時間、専門課程30時間を履修し、基礎課程1,038名、専門課程 345名の地域専門職が修了しました。

受講者の主な職種

看護系（助産師 / 保健師 / 看護師等）
栄養系（栄養士 / 管理栄養士等）
保育系（保育士 / 幼稚園教諭等）
特別支援学校系（特別支援学校教諭 / 養護学校教諭 / 盲・聾学校教諭等）
その他教育医療系（小中学校教諭 / 医師 / 言語聴覚士 / 作業療法士等）

専門課程修了者
345名



基礎課程修了者
1,038名